

会 議 録

1 会議名

令和5年度第3回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市の社会教育事業の「学びのグランドデザイン」について（公開）
- (2) 令和6年度事業計画・予算案について（公開）
- (3) 社会教育委員による事業評価について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和6年2月21日（水） 午前10時～11時40分

4 開催場所

上越市教育プラザ研修棟3階 大会議室

※オンライン会議と同時開催（会場参加とオンライン参加により実施）

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：（会場参加）石田浩久（途中退席）、茨木真、江村奈緒美、亀山浩、
小林英子、土屋郁夫、中條リカ、平田順子、松井和代、村本亜紀子、
森田浩、山崎美枝子、渡邊恵美
（オンライン参加）勝俣将明、佐藤ゆかり、鈴木重行、山川美香
- ・事務局：福山亮社会教育課長、宮崎英紀参事、竹内巨樹副課長、閨間哲也係長、
池田誠係長、宮川真弓係長、山田幸江主査、増田健主任、
岩片恵里奈主任

8 発言の内容（要旨）

- (1) 開会
- (2) 渡邊委員長挨拶

(3) 議事

① 上越市の社会教育事業の「学びのグランドデザイン」について

— 事務局説明 —

渡邊委員長：皆さんからご意見・質問等を寄せていただきたい。

渡邊委員長：非常によく考えられている。従来の目指す姿の下の文言が基本方針となっているようだが、「地域をつなぐ」「人をはぐくむ」「市民の学びの輪」と上から順番に並んでいると逆ではないかと感じる。矢印で表現しているようだが、矢印の下側がグレーで薄く見えにくい。また、あまり重要ではないと捉えられる。例えば、矢印を山形などにしたり、色をしっかりと全面に出したりすると順番が分かりやすいのではないか。

江村委員：誰が見てもわかりやすくできている。事業があり、学んでいくことで目指す姿に向かっていくことが矢印で示されているところがわかりやすい。学びの輪の図もそれぞれの関連がわかりやすくよい。

山崎委員：文字だけでなく、見た目でわかりやすくなったところがよい。基本方針の中に「わくわくする学び」という文言があるが、修飾語が増えれば増えるほど具体化することが難しくなるので、そこも考慮したほうがよいのではないか。

亀山委員：説明を聞くと作成した意図がわかり、よく作りこまれていると感じた。右側の事業分類が詳しく記載されていてわかりやすいが、左下の5つの事業の柱と連動していることがわかりにくい。5つの事業の柱の図を横にしたり、色分けしたりするとわかりやすくなるのではないか。

土屋委員：渡邊委員長の話にもあったが、基本方針の示し方がわかりにくい。中学生・高校生が見てもわかるよう、基本方針と5つの事業の柱をもう少しうまく結びつけることができないか。「わくわくする学び」という文言も具体化していくとなると難しい部分もでてくる。右側の事業分類はわかりやすい。

事務局：基本方針と5つの事業の柱の繋がりや右側の事業分類への繋がりについては、委員の皆さんからの意見も踏まえて、見直したい。また、具体的な意見があれば、事務局へお寄せいただきたい。今年度中に作成し、来年度初めには広く周知していきたい。左下の5本の事業の柱の図は、5つの事業の1本1本の柱が上の基本方針を下支えしているという意味がある。また、基本方針については、上から「市民の学びの輪」「人はぐくむ」「地域をつなぐ」と並べてみたが、5本の事業の柱から上の目指す姿へ向かっていくのであれば、基本方針についても下から上がっていくように並べる方がよいと考えた。先ほど、矢印の太さの意見もあったが、矢印を下から上に広がるような形にするなど事務局で再度検討し、提案したい。

亀山委員：今の話を聞き、先ほどの5つの事業の柱の図を横向きにしてはどうかという話は、柱として土台となっているということであれば、変わってくる。では、5つの事業の柱と右側の事業分類の表をそれぞれ同色で揃えて直観的に繋がりがわかるようにしてはどうか。試して、色合いを確認してほしい。

江村委員：同色で揃えるよりインパクトは薄くなるが、右側の事業分類も左側の5本の事業の柱に合わせて白抜きにすると繋がりがわかりやすくなるかもしれない。

佐藤委員：右側の事業分類のイラストが、ほぼすべて男性が大きく、身長差があるように描かれている。すべてそうする必要はないのではないかと。

事務局：イラストについては、上越市第7次総合計画の中のイラストから抜粋し、引用している。いただいた意見は、第7次総合計画を策定した総合政策課にも伝え、今後に活かしていきたい。

渡邊委員長：今までの意見も踏まえて、事務局で再度検討していただきたい。

② 令和6年度事業計画・予算案について

— 資料No.1～3に基づき事務局説明 —

山崎委員：資料3ページの中学生の文化環境づくり事業で、「子どもたちが将来にわたり継続して文化芸術活動に親しむことができる仕組みや制度づくりに取り組む」とあるが、とても大事である。令和7年度末までに学校での休日の部活動を完全に廃止するという話もあり、早めに取り掛からなくてはならない。これは、中学校の部活動に限ったことではない。小学校でも、金管指導など同じ問題を抱えている。中学校に限定することなく枠を広げていかなくてはうまくいかない。

事務局：事務局としても同じ考えを持っている。地域クラブフェアを何度か開催したが、中学生だけでなく、小学生の親子が多数見られた。これまで、中学生と小学5、6年生を対象に地域クラブフェアの案内を行っていたが、今後は、中学生と小学生全員に案内チラシを配付し、より多くの人から参加していただきたいと考えている。

松井委員：昨日の中学生のスポーツ・文化環境づくり推進委員会議の際にも話をしたが、私の所属するNPO法人三和スポーツクラブでは、来年度、吹奏楽部を支援することになった。環境がないことと指導することができる人がスポーツ関係者にいたことから、会員登録をしてもらい実施する。昨日の会議で、指導者の研修会や謝金、保険についての話もあり、ほっとしている。保護者会も終わり、3月から試行していくことになるが、中学校の土日の開放の問題がある。持続可能というところでは、学校枠を外してと言われているが、楽器の貸与が中学校の楽器となると対応が難しい。保護者会を開催した際に、過去には小学校で、金管、鼓笛を行っていたが、今はやっていないため、中学校でいきなり楽器を触ることになる。しかし、地域に指導者がいるのであれば、小学生も一緒に活動できないかという話があった。特に、兄弟で上の子がやっていると下の子も一緒にやるのがスポーツでもよくある。中学生だけでなく、小学生も

参加できるよう体制整備をしてほしい。保護者の要望はたくさんある。行政と保護者との話し合いの場もあるとよい。

小林委員：先ほどの学びのグランドデザインの際にも話がでたが、「わくわく」という言葉が気になる。市民みんなに知ってもらいたいことの中には、わくわくしないこともたくさんあるはずである。防災に関してもそうだが、そういう講座にも参加してもらうための環境を作ることが大事ではないか。また、最近、子どもを放課後児童クラブに預けている家庭が多く、地域で小学生を平日ほとんど見かけない。そのことは、子どもたちを地域へとやっていることへの1つの弊害になっているように感じる。子どもたちは、今まで大人たちとの交流がほとんどないため、中学生になり、急に地域で大人たちと一緒に活動するとなると戸惑ってしまう。小学生や幼児から繋げていくことが大事である。生涯学習とは、小さな子どもから高齢者までが対象になるが、繋がっていない。繋げる枠組みづくりについて、行政の皆さんに頑張ってください。

土屋委員：資料9ページの地域独自の予算事業補助金について、企画案を提案する場合は、どこの課へ相談すればよいかわかりにくい。区の総合事務所か、あるいは社会教育課に相談するのか相談する場所を教えてください。

事務局：地域独自の予算事業補助金は、区の総合事務所あるいはまちづくりセンターで市民からの相談をもとに事業化しているため、区の総合事務所あるいはまちづくりセンターに相談してほしい。事業化されたものが、内容に合わせて各課の予算に計上される。議会でも、細かなことは各区の事務所長やまちづくりセンター長が答弁を行うことになっている。予算計上課では、事業化には直接かかわっていないが、事前に事業内容について市の事業と重複していないか確認は行っている。

江村委員：当初予算要求一覧（案）について、公民館等予算の事業概要が一律で利用者が安全で快適に利用できるよう適切な管理運営を行うと記載されていることはわかる。しかし、吉川区在住者としては、吉川区の7分館

のうち3分館は今年度末で廃止になるが、廃止する施設も記載されていることに違和感がある。

松井委員：当初予算要求一覧(案)を見た際に、対年度増減額をチェックしている。

この会議で説明を聞くと増減理由がわかるが、資料に記載してあれば、後日、会議録等を見た人にもわかりやすいのではないか。

事務局：これから予算審議に入るということもあり、資料には事業概要だけ記載し、前年度増減額の大きいものを中心に担当係長が詳細を説明した。吉川区の分館については、7分館のうち3分館は廃止となるが、建物がある限り、草刈り等維持管理をしていかななくてはならず、その経費も予算計上しているため記載してある。事業概要の記載方法については、来年度以降、検討していきたい。

③ 社会教育委員による事業評価について（質疑なし）

— 資料No.4に基づき事務局説明 —

④ その他（新潟県社会教育研究大会胎内大会 分科会発表の報告）

渡邊委員長：第一分科会と第二分科会があり、2市ずつ、各市が異なるテーマで発表を行った。上越市は第一分科会で部活動の地域移行に関するテーマで発表を行った。終了後のアンケートを見ると、上越市の発表した部活動の地域移行についての意見が多く、非常に関心があることがわかった。

松井委員：委員の皆様のアドバイスや質問のおかげで、よい発表になった。分科会発表後に電話での問い合わせや視察に訪れた人もいて、反響が大きかった。

山川委員：オンラインで研究大会に参加した。上越市が発表する第一分科会に参加したかったが、主催者側の手違いか、第二分科会に参加することになった。第二分科会では、障害やそれぞれの活動に特化した発表であったが、発表した2市のどちらも、もう少し行政と連携できないかと投げかけて

いた。よい活動があり、求めている人がいるが、繋がらなかったという残念なケースもあるようでもったいない。上越市でもそうだが、他市でも連携を求めていると感じた。

(4) その他

佐藤委員：地域クラブフェアの日程は、5月11日（土）と11月23日（土）の学び愛フェスタとの同時開催の2回でよいか。毎年、学び愛フェスタの際に、学校で地域に開かれた事業を展開しているが、11月23日であると参加できないため、確認したい。

事務局：主管する教育総務課からは11月23日（土）と聞いている。日程に変更がある場合は、連絡させていただく。

(5) 閉会

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課 TEL：025-545-9245（内線2741）

E-mail：shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。